

CONTENTS ◆まちめぐり ◆おくさわ今と昔 ◆奥沢の歴史を訪ねて ◆事務局雑感  
◆活動報告 ◆会からのお知らせ

### 秋のつどいレポート

## まちめぐり

(樋口一葉が暮らした本郷菊坂)

今年は樋口一葉の暮らした空気感を求め、世田谷を離れ、江戸時代以前からの歴史をバックに台地上の住宅地西片・本郷と低地に沿った下町的な商住混住地の代表菊坂を訪れた。

【見学箇所】 - ( ) つきは説明のみで近くを通過

本郷三丁目駅→本郷三丁目交差点・かねやす→本郷薬師(刑場跡)→見送り坂・別れ橋涙橋・見返り坂・菊坂→東大赤門・桜木の宿(一葉4~9歳)・法真寺→金魚坂→菊坂上道→(本妙寺跡・石川啄木赤新館・菊富士ホテル)→本妙寺坂→ふるさと歴史館→坪内逍遙旧居跡・常磐会跡(松岡子規)→炭団坂→菊坂下道→宮澤賢治旧居跡→一葉旧居跡入り口(現本郷4-32・31.)→一葉旧居跡(18~21歳一葉が使っていた井戸)→鏡坂→金田一京助春彦旧居跡→菊水湯→古い木造3階→菊坂小径→菊坂上道→一葉ゆかりの伊勢屋質店→菊坂下交差点→(石川啄木蓋平館別館)→一葉終焉の地水上の家(旧丸山福山町4番地現西片1-18、22~24歳)

本郷三丁目は江戸と豊嶋郡との境界線である。江戸払いになった罪人は家族達と涙橋で別れ、追分に向かったり、菊坂沿いの東大下水で舟に乗り東京湾に向かった。菊坂は加賀屋敷の湧き水が本郷台地を刻み東大下水に沿って出来た低地である。谷は千川、小石川等と合流、後樂園付近で神田川に流れ込み東京湾に注ぐ。

本妙寺は明暦の大火(振袖火事)の火元と噂された。菊坂は上を通る商店街を菊坂上道、それと平行に東大下水沿いの細い下の道を菊坂下道という。樋口一葉の転居後の家の勝手口からこの菊坂下道と小川が見えたが一葉日記に書かれている。

菊坂下道と鏡坂の間に10本近く小径がある。菊坂には井戸が多く一葉の井戸もその一つ。他にも震

災用に数カ所残しているが、昔は共同のつるべ井戸だった。小径の軒先には沢山の鉢やプランターが並べられ、緑豊かでネコがのんびり歩いている。

菊坂の伊勢屋質店は貧しい一葉がお金がなくなると母の着物を持って通った馴染みの質屋で、一葉が亡くなった時には香典を持って行ったといわれている。今は営業していないが蔵の内部は明治初期のままで毎年11月23日の命日に地元NPOが開放している。同日午前9:30から法真寺でも第34回一葉忌が執り行われる。主宰は文京一葉会。文京区、区教委、区観光協会が後援、地元赤門町会、一葉終焉の地所有者で石碑を建てた興陽社の社長が協力している。一葉は日記の中で当時を思い起こし、隣の法真寺の梅が見え、一番幸せの時代だったと書いている。その縁で今もご住職が法要を続けてくれている。

菊坂から少し足を延ばすと一葉が内弟子になっていた下田歌子の歌塾「萩の舎」、にぎりえのこんにやく閻魔、千姫・於大の墓がある伝通院も近い。

菊坂は週末になるとカメラを抱えた一葉ファンやまちめぐりグループで賑わう、世田谷とは一味違う歴史と庶民の生活が感じられるまちである。(赤松)



(一葉の旧居跡と一葉が使っていた共同井戸)



(菊坂上道にある一葉ゆかりの伊勢屋質店(右側の土蔵))

# おくさわ今と昔

(このシリーズでは奥沢に長くお住まいの方、新しく移ってきた方々など、毎回2人の住民の方が登場し、この街にちなんだエピソードを語っていただきます。)

## 「私の店と商店街」

奥沢3丁目 長谷川 和弘

私の家は、祖父が昭和8年の4月に大田区の梅屋敷から奥沢の銀座通り商店街に引越し理髪店を開業して今年で八十年になりました。お店の屋号『理髪ヤング軒』は母方の祖父が大正七年に当時の赤坂区青山で開業したお店から頂いたもので、昔はちょっとお洒落な屋号だったそうです。戦時中はYOUNG KENというローマ字が使用できずに大和と名のつた時期もあったそうです。昔の理髪店はお客さんが客待ちで囲碁をしたり、子供は頭も刈らずに漫画を読んだり、のんびりしていたそうです。

戦後父の代になり飛行機好きな父は、店の脇に模型飛行機の店を始め、本人も休みの日には多摩川でラジコン飛行機を飛ばしていました。私も模型作りの手伝いをして多摩川に連れて行ってもらいました。

当時店にはお弟子さんが七、八人いて両親と朝から晩まで忙しく働いていました。商店街もお店が沢山あり、お店ごとに正月は門松、お祭りは提灯などの飾付けをして朝早くからお店が開いていたのを思い出します。商店会も盆暮れには福引き、七の付く日のセブンスール、騎馬隊のパレードなどイベントがあり、四十年代には買物通りとして歩行者天国が始まり、世田谷区のモデル地区として、各お店が花や植木で飾られてとてもにぎやかでした。

私が父と一緒に働くようになった五十年過ぎからは少しお店が閉店してちょっと静かな街に成りましたが、今でもこの通りは何か温かみのあるほっとする街だと思います。これからもこの奥沢で仕事を続けて行くつもりです。



(祖父がお店のお客様  
にお願いして彫って頂いた  
母と祖父の木彫。いつも  
店の隅から自分たちを見守っています。)

## 「子どもに見せたい昔の奥沢」

奥沢4丁目 山田 恵子

私の家は奥沢4丁目の真ん中あたりにあります。昭和33年頃の記憶や思い出をたどってみます。

町並みは生垣が続いていました。右隣の家は洋風な玄関までのアプローチにアジサイが咲いてきれいでした。そして昭和3年に建った私の家は庭の真ん中に建っていました。斜めに入る玄関までの植木のバランスがとれ、雪が積もるともっと素敵でした。左隣の家は門から玄関まで曲がりくねったアプローチでした。離れのような2階の屋根のてっぺんに、雀のお宿が見えました。向かいには杉山さんというヒマラヤ杉の並んだ洋風な家。斜め向かいには白壁さんという茶色で少し水色がかかった板塀の家でした。

私の家の生垣には時々蛇がはっていたり、宇宙のようなカラスウリが咲きました。私が小学生になると、垣根は下の枝が少なくなり穴が開いて缶蹴りで遊ぶには絶好のトンネルでした。お祭りで山車の牛が繋がれた時は葉を食べてももっと大きくなりました。そしてブロック塀に変えました。工事の時はたくさん木を根こそぎ抜くので泣きました。

道が舗装され始めました。道路は両側のドブに向かって、かまぼこのように傾斜していましたから、自転車で角を曲がった時、ドッジボールで遊んでいる集団に突っ込むと、ハンドルを取られ車輪がドブにはまることがありました。

昔はなぜ野良犬が多かったのでしょうか。4・5匹がケンカをしたり跳び回ったり。怖くて遠回りをして家にたどりついたことがありました。

新しい友達には、井戸のふたを持ち上げ、真っ暗な中をのぞいて水滴の音を聞き大声を出すのが、私なりのサービスでした。でも石鹼を落として、友達の前で叱られてからは、やめました。鬼ごっこの時、お便所の汲み取り口の板に友達が乗って落っこちないかとひやひやしたり、姉の友達とやるゴム段は、片方は柿の木、もう片方は私が持ち、高いの低いのと言われながら、遊びました。

あの頃の奥沢に出会いたい。こんなこともあって奥沢が好きなんだと、子どもに見せてあげたい。

# 奥沢の歴史を訪ねてV

## 奥沢城址の歴史的考察と土塁の調査①

浄真寺周辺は世田谷区において区遺跡番号 167 奥沢城址、同 275 城前遺跡として登録されている。

城前遺跡は以前から奥沢台遺跡の散在遺跡として認知されていたが、主に浄真寺北側の墓域辺りに縄文早期・後期の土器破片がみつかっており、寺域の発掘調査は行われてはおらず発見されていないが、数軒の住居跡が在ったと推定されている。ここは奥沢台遺跡と 1km 以内の距離なのでその子ムラであり、諏訪山遺跡等と 4 つの遺跡で一つの村落を成していたと考えられる。縄文後期になると集落が低い段丘に移って行く傾向がある。食料が植物中心から河川漁労中心へ移行した為であろう。

なお、九品仏浄真寺が中世城郭であったことは、『新編武蔵風土記稿』『江戸名所図絵』に俯瞰木版画を添えて記されている。木版画は一部誤認が認められ正確さには欠けるようである。

奥沢城址については近代になり、『玉川村史』『武蔵野歴史地理』にも触れられているが、図が実測されるのは小室栄一氏による『中世城郭の研究』(1965)が最初である。ここには一辺 140 ㍍の方形土塁が記載されている。

また、三田義春氏『世田谷の中世城塞』(1979)では地理的側面を考察し、南側を大手門、字千駄丸を場外防砦と考えた。産業能率短大付近が北門だったとか、字中丸の名があったのも外曲輪を想像させる。この後『日本城郭大系第五巻埼玉県・東京都』に奥沢城として要約紹介されている。

さて、城址の証として唯一残る土塁に関しては過去 1984 年に平板による簡易トラバースで実測及びハンド・オーガー (3 ㍍) とボーリング棒 (2 ㍍) による調査が 1 回実施されただけらしい。常緑樹が多くトランシットは使えなかったようである。これは区内全域の社寺の総合調査の一環として考古学的調査を行ったものであり、詳細は『浄真寺文化財総合調査報告』に記載されている。

土塁の長さは約 150 ㍍、高さはおおよそ 32 ~ 34 ㍍である。上幅は 3 ~ 6 ㍍、下幅は 11 ~ 23 ㍍、海拔は約 32 ~ 34 ㍍である。一部石積みが見られるが、南側土塁は比較的原型を留めている。それに引き替え、東側は建築物で一部削られ、西側は塀や道路により削られ、北側も墓域によりかなり変形させられ

(私たちの住むまち奥沢の成立ちはどうだったのでしょうか、調査結果をシリーズで紹介します。)

ている。いずれもお椀形をしている。一部低くなっているところは通路として使われていた為である。南側の上面は子ども達の遊び場にもなりかなり踏み固められている。南西隅が一番高く、34.3 ㍍ある。地面からの比高も内側で 3.5 ㍍、外側で 4.4 ㍍ある。九品仏三堂の裏側は墓域化が進んでいる。北西隅が最も変形、一部車庫化している。北東隅は石垣になっているが、それ以外は比較的原型を留めている。

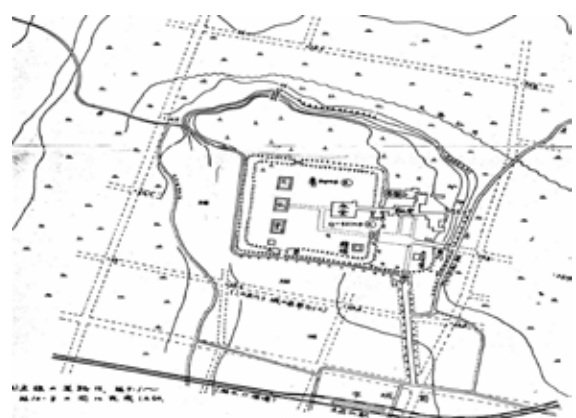
また、コーナー部分が直線部分より幅が広く高くなっている。台地の地形を利用して築城したものと思われるが、もしかすると直線部分には木製の塀や柵が作られ、四隅には物見櫓などが建てられていたかもしれない。

なお、土塁の傾斜角は北辺・南辺の直線部内側上端近くが 20 ~ 25 度、下端近くが 10 ~ 15 度、外側上端近くが 25 ~ 35 度、下端近くが 10 ~ 20 度。東辺・西辺は 30 度前後と一定である。これに対して四隅は内外共に約 25 度である。

これらのことは小室栄一氏によって諸城址と比較研究されているが、石材を使用する事が一般的な時代には突き固めて作り出せる限界は 45 度とされている。上方から土を落とし自然に積もる限界も 45 度であるといわれている。(赤松)



(浄真寺鐘樓の背後に南側土塁)



(奥沢城址：出典 三田義春「世田谷城の研究」)

# 事務局雑感

地域活動に大きな変化が現れ始めている。facebook の様な SNS (Social Networking Service) の登場は、自分たちの属する地域、職場、学校を超えた個人間のコミュニケーション網の形成を促し、関心を同じくする人たちのグループが柔軟な活動を展開し始めている。

一方当会の様な NPO、町会や商店会は、地域に根を張った活動や事業を続けているが、活動を始めた時のメンバー構成があまり変わらずに高齢化したり、事業の立地事業環境が変わりその結果メンバーが減少したり、世代交代がなかなか進まないが、お祭りや盆踊りのようなイベントには若い住民が驚くほど多く参加するのに、活動になかなか取り込めないでいる。

設立当初当会は、減少しつつあるみどり回復のために会員や地域住民と共に積極的な運動を展開していた。例えば、「景観木」「街並み選奨」の様な大切にされている街の樹木や住宅の推奨制度、界わい宣言登録、大ケヤキを守る運動等である。一方、土と

みどりに関わるお話や音楽のつどいやまちめぐりは、会員や地域の方々に参加頂き楽しい交流の時を重ねている。

しかし最近では土とみどりを守る社会への働きかけは法律の壁等に阻まれて停滞し、またつどい等もマンネリ化が否めない。これに加え会員の高齢化による会員数の減少も続いている。新しく始めたフラワーアレンジメント講習会や街の落ち葉掃きといった小グループの活動は順調に推移しているが、曲がり角を克服する事ができるかは尚時間を要する。

このような環境の中で最近、代表理事の堀内氏は、「シェア奥沢」という、ご自分の住宅の一部を改装して「活動や交流の場」を提供し始めた。氏が今まで大学等で展開してきた、多分 SNS の利用も含めた、地域に限られない活動に、具体的な場が提供され始め、グループ間の交流による活動の活性化が期待されている。

これは当会活動の今後を考えるうえで、示唆を与えるものになるだろう。(鈴木)

## 活動報告

- 世田谷区第3回地域風景資産は選定の段階に進んでいます。選定委員による候補資産の現地確認が10月5日(土)に行われました。生憎の雨天でしたが、住職のご好意で、浄真寺境内にある奥沢城址の土塁と鶯草園を赤松理事が案内し、堀内代表がビデオ機器を持ち込み、制限時間内に効果的なプレゼンを行うことができ、十分な理解が得られたと思います。
- 秋のチェリーセージのメンテナンスは、10月12日(土)、13日(日)と26日(土)に行いました。全体が枯れてしまったり、枯れた枝の根元から新芽が出ている株が多く見受けられ、改めて今年の猛暑が思出されました。引越等でプランター数が減少しています、ご希望の方は是非お声をかけて下さい。
- 今年の奥沢文化祭展示のテーマは、9月に行った樋口一葉の旧居を訪ねたまちめぐりと地域風景資産選定活動している「奥沢城址をめぐる鶯草伝説」の展示を行いました。

## 会からのお知らせ

- 晩秋のつどいは、11月24日(日)午後1時半から、「シェア奥沢」(堀内代表宅内に新設された多目的スペース)で行われます。お話は、井山修司さんの「自然農」、奥沢コンサートは佐川文絵さんのピアノと加藤夕葵さんのフルートの演奏を予定しています(詳細はチラシ等でご案内します。)
- 第2回フラワーアレンジメント講習会を、12月7日(土)午後1時半から、「シェア奥沢」で行います。クリスマスのミニリースを作ります(詳細はチラシ等でご案内します。)

- 土とみどりを守る会はいつでも新会員を募集しています。会の活動を支える会費は1口1,000円です。どうぞご協力をお願い致します。入会のご相談は下記へお寄せ下さい。

土とみどりを守る会 連絡先

世田谷区奥沢 2-32-11 堀内正弘 5701-5901  
世田谷区奥沢 2-19-9 長瀬雅義 5729-0126  
世田谷区奥沢 2-18-6 鈴木 仁 3723-6659  
ホームページ : <http://tsuchimidori.net>  
e-mail : [info@tsuchimidori.net](mailto:info@tsuchimidori.net)